



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成30年度学校だより
第2号
平成30年5月1日発行



今日も学校に来てよかった、明日も来よう と思える学校をめざして



新緑が目に見え鮮やかな季節となりました。なかよし広場にある藤棚の白と紫の花が満開を迎えています。つつじの花もあつという間に満開になりました。

新年度を迎え1か月が経ちました。天気の良い日が続き、夏を思わせるような暑さの日があったかと思うと、季節が戻ったかのような風が吹く日もあって、子どもたちの体調管理にご配慮いただいていることと感謝申し上げます。

4月18日の「1年生を迎える会」では、6年生と手をつなぎながら、満面の笑顔で入場してきた1年生。それぞれの学年紹介の声も明るく元気で、楽しい会になりました。「じゃんけんピラミッド」では、上級生が優しく促しながらゲームを楽しむことができました。遊びを通して異なる学年との親睦を図る機会をこれからも設け、今後も仲のよい学校にしていきたいと考えています。

さて、4月22日の授業参観・PTA総会には多くの皆様に来校いただきありがとうございました。松尾義空会長のもと、「深めよう 絆 広げよう 志楽の“わ”」の活動方針を目指して、防災・安全、会員相互のコミュニケーション向上、地域連携を重点に取り組んでいただくことが確認されました。

学校からは、本年度の学校教育目標「自ら学び、自分の可能性を切り拓く子」の育成、いじめ防止、小中一貫教育の取り組みについてお伝えさせていただきました。今年度、学校経営方針を「楽しく学び、夢を志に高める学校」とし、「居場所づくり、つながりづくり、やりがいづくり」を通して、子どもたちが「学び手」として育つように、ご家庭や地域の皆様と手を携え、人権尊重を基盤にして、愛情と信頼と期待で包み込みたいと考えています。教職員一同、「チーム志楽」で心をつなげてその実現に努めます。社会の変化が激しいこの時代。たくましく生き抜く力を保護者・教職員・地域の方々と協働して育むことができますよう、どうぞよろしく願いいたします。

家庭訪問をお世話になりました。お聞かせいただいた保護者様の願いやお考え、ご意見を今後活かし、一層のご支援とご協力をお願いいたします。

校長 小森 昌子
教職員 一同

語彙(ことば)を増やす

先日、6年生教室で社会科の時間、「渡来人」が伝えたものについて、話し合いをしていました。昔、「渡来人」が伝えたものには、陶磁器、紙や筆、漢字、仏教など、今の私たちの生活に欠かせないものがたくさんある、という話でした。

その中である子から「じゃあ、渡来人が来なかったら、今、ぼくらは文字が無かったかもしれないことか・・・どうなってたんだろう。」の声。「文字」。あって当たり前のもが無かったら・・・子どもたちの話を聞きながら、ふと考えました。

人は、自分の考えを伝えるときに、聞いたり話したりしますが、書いて伝えることも欠かせません。「話し言葉は日本語全体の1割ぐらいで、残りの9割は書き言葉だといわれている。」と本

の中で読んだことがあります。

これから社会に出る子どもたち。いろいろな人に出会い、いろいろな言葉に出会うでしょう。そんな中で日本語の9割を知らないと弱点になりかねません。

最近、子どもの「語彙力(どれだけ言葉を知っているか)」の不足が話題に上がっています。語彙力を付けることが、的確に言葉を探り、自分の思いを正しく伝え、相手の思いを理解することにつながります。

本校でも、日々の活動の中で語彙を増やし、豊かに表現する子どもを育てようとして取り組み始めています。おうちでも子どもたちが今まで知らなかった言葉に出会ったとき、その言葉について話ができるといいですね。